

# 地方通信



## 横濱通信

T S 生

神奈川県御大禮記念表彰式が紀元節の佳辰正廳に於て舉行せられた、被表彰者は節婦二名自治功勞者三名其他實業功勞者教育功勞者社會事業功勞者衛生功勞者、優良吏員優良傭人優良村、優良團體、永年勤続警察並消防官吏、同道路監守、納税獎勵規程に依る被表彰等で次で選奨狀並表彰狀、獎勵金助成金等が傳達並交付せられ松村知事の式辭來賓の祝辭があつて閉會、更らに本會及土木協會よりの道路監守の表彰が傳達せられた、本會の被表彰者は別項の如く八名であつたが土木協會は左の二名を表彰

せられた。

神奈川縣道路監守 高澤 辰藏  
同 千葉 吉明

## 水戸便り

K O 生

茨城縣下の各種功勞者表彰式が紀元二千六百第一年の紀元の佳節十一日縣廳正廳で全表彰者參列、吉永知事以下各官民多數列席し盛大に舉行された、佳辰に薫る梅花にも似た褒賜さを展示することゝなつた、開式に次いで御下賜金の傳達がありいよゝ前達の各表彰者に表彰並に賞品授與が行はれ、吉永知事の告示あり、次いで來賓代表鈴木縣會議長、中崎水戸市長の祝辭あり表

彰者總代の答辭を以て晴れの表彰式に終止符を打ち正午散會したが被表彰者は徳行者一名統計功勞者二名稅務功勞者二名優良納稅組合二、自治功勞者三名小學教育功勞者五名、學校事務功勞者一名、學校衛生功勞者四名優良青年學校一、優良青年團一、青年教育功勞者二名、社會教化功勞者四名、優良銃後奉公會一農事功勞者二名優良産業組合一商工功勞者一名優良商店員二名漁業功勞者一名永年功勞警察官二十六名、優良道路當工夫四名であつた其の道路當工夫の闕歴左の如し。

道路工夫

下館土木園張所

道路工夫 青柳傳次郎

明治二十五年五月一日生 資性良品行方正にして寡黙克く上司の命を守り職務恪勤なり勤績十三年餘一貫して修路の任務を全ふし技術優秀にしてその成績他の模範とするに足る

水戸土木出張所

道路常工夫 飯村 三郎

明治三十年四月一日生

資性温順品行方正にしてその業に仕ふること眞摯なり勤続十七年その間克く道路の維持修繕に竭し擔當路線は常に良態を保持す技倆亦拔群にしてその成績他の模範とするに足る

大子土木出張所

道路常工夫 渡遊 勝正

明治三十七年十二月十二日生

資性勤直上司に従順にして平素克く行狀を慎み技倆優秀なり勤続十七年餘一日の如く孜々として修路に精勵し且作業敏捷にして克く交通の繁激に備へその成績他の模範とするに足る

宗道土木出張所

道路常工夫 内田 秀吉

明治二十一年三月十七日生

資性温厚品行方正にして服務實直なり勤続十七年餘終始一貫道路の保善に竭し常に路面を良態に置き通行者をして感激せしむ

技倆亦優秀にしてその成績他の模範とするに足る

### 石川縣の道路功勞者表彰

N T 生

石川縣では二月十二日縣廳正廳において土木出張所長會議を開いたこれにききだつて道路改良協會よりの道路功勞者表彰傳達式を舉行、定刻田中知事、鈴木經濟部長、

中村土木課長および縣技術官はじめ十六出張所長、被表彰者その他六十名着席し定刻

一同宮城遙拜、ついで出征將兵ならびに護國の英靈に對し默禱をさしげ、終つて田中

知事から二十年以上道路改良事業に従事し功勞があつた石川縣土木技手石崎次作同道

路技手高島博、畑中龍造、藤田信、麻多亮

吉同土木技手金森助次郎、輪島重作金澤市

書記末岡彌三雄、同技手高田啓一同道路常

用工夫太田勇次郎、村本北三郎羽咋郡志雄

### 鳥取から

一 路 生

に入り付議の案件を中心に質疑應答が行はれた。

紀元二千六百年の佳節に當り鳥取縣では縣會議事堂に縣下の會事業團體、國民貯

蓄、自治、教育、神社、統計、社會事業、衛生の各功勞者節婦、永年勤續警察官、道

路工夫、優良學校、優良團體、優良組合、優良農會、優良納稅組合、優良部落町内會

その他各種事業功勞者など百三名の參集を乞ひ、畏きあたりからの御下賜金ならびに

高松官賜品、農林商工兩大臣選獎狀、國民貯蓄獎勵局長官の表彰狀、獎勵局長官の表彰

狀、獎勵金の傳達、八田知事の褒狀、表彰狀授與式典を舉行した、この光榮に浴した

るは大政翼賛の篤行者諸氏で何れも縣民の模範とし選獎するに足る新體制下の至寶で

ある其の内の道路愛護の優良團體は

△特撰六拾圓日野郡江尾村道路愛護治水施

設保全會

△壹等同溝口町、同東伯郡高城村同、同八頭郡佐治村同

△貳等四拾圓岩美郡成器村道路愛護會、同

西伯郡光徳村同、同東伯郡山守村同治水施設保全會、同日野郡日野上村同、同八頭郡若櫻町同、同郡岐區道路治水愛護會

同池田村道路愛護治水施設保全會、同東伯郡上北條村同

△參等貳拾圓同中北條村同、同日野郡石見村同、同岩美郡宇倍野村道路治水愛護會

同西伯郡崎津村道路愛護會、同八頭郡山形道路愛護治水保全會、同西伯郡大山村

道路愛護治水施設保全會、同日野郡二部村同、同日野村同、同三徳村同、同西伯

東郡長田村同、同日野郡根雨町同、同西伯郡賀野村同、同氣高郡中郷村同、同東

伯郡淺津村同、同鳥取市賀露町同、同東伯郡北谷村同、同市勢同、同西伯郡大和

村同、同東伯郡上郷村同、同八頭郡船岡村同、同日野郡日光村同、同多里村同、

同西伯郡春日村道路愛護治水施設保全會

同五千石村同、同岩美郡福郡村道路愛郷

會、同西伯郡夜見村道路愛護治水施設保

全會、同岩美郡東村同、東伯郡社村同、

同以西村同、同西伯郡高麗村同、同幡郷

村同

△四等拾圓東伯郡伊勢崎同外三十圓體

△五等七圓東伯郡竹田村道路愛護治水施設

保全會外四十一圓體

△六等五圓西伯郡外江村道路愛護會外三十

七圓體

永年勤績の道路關係者は左の四氏である

道路工夫 赤松 文治

同 土橋 榮藏

同 青砥 長市

同 前田龜太郎

着工せらる

山口縣下縣道の大改修

山口縣下府縣道岩國津和野線中玖珂郡桑

根村河山村地内道路、延長五キロ八〇〇米

臺灣便り

林焯仙

時局に即した山地産業道路網の計畫

嘉義斗六新化三郡に跨る新高山系の連峰に埋まれる「山の幸」を開發するため臺南

州では既に今川知事の頃より嘉義郡大凍子

脚、云水、中埔を経て嘉義に南は曾文溪に

沿つて楠西、玉井、新化を経て臺南に至

る延長一七〇軒の京山地幹線道路と嘉義郡

奮起湖を中心に南は大湖香路を経て嘉義に

北は幼葉林、大坪、小梅を経て大林に至る

延長一〇〇軒の北山地幹線道路からなる二

の嘉義を樞軸とする山地開發ルートの完成

を目差して年々工事を進めて來たが現在で

は北山地幹線道路は其殆を又南山地幹線道

道

路も約四分の一即ち楠西(新化郡)大埔、馬頭山(嘉義郡)の間五十軒を残して完成してをり、この中楠西、大埔間(四十軒)は三十六萬圓の州費を投じて昭和十四年度より開發に着手し近く完了する豫定でありまた大埔、馬頭山間(十軒)も昭和十六年度内に開發を計畫新年度豫算に十六萬五千圓の工事費が計上されてゐるから昭和十六年度中に臺灣嘉義兩市は南山地幹線道路の開通により結ばれよう元來南山地幹線道路は大埔盆地の開發を目的としたもので大埔は海拔三百米曾文溪の上流にある大盆地で農耕植林畜産の適地とされ總督府でも大正六七年頃には畜産試驗場を設置してゐたことに於ては判るがこれはその後交通不便のため廢止された以前は四百戸ほどあつた部落戸數も交通難のため現在では二百八十戸(千三百人)に減少してゐる、州當局の調査によると大埔盆地の畑地適地は九百甲、牧場適地は八千甲に上る廣大なものでこの中耕行されてゐる田三百甲、畑百甲を除き他

はすべて未開の沃野であるここにはまた個人經營になる改良糖廓の一工場あり僅に曾文溪沿岸の牛車路により製品を搬出してゐると云つた程度のさやかな生産が營まれてゐる現狀であるがこの山地開發道路が眠れる大埔盆地の生産に旺盛な上昇方を與へることは言ふまでもない、これら新高山三百五十九甲、蕃地に四萬九千二百六十五甲ありこの二十三萬六千餘甲に及ぶ廣大なる山地を開發するため臺南州では昭和十六年以降更に延長二百八軒に互る山地開發道路新設計畫を樹立した、即ち

- 一、嘉義郡中埔庄觸口より同庄公田ロアタウを経て同郡番地サビキに至る「觸口、サビキ道」(三十一軒)
  - 一、斗六郡古坑庄溪邊厝より同庄十字關を経て同庄草嶺に至る「溪邊厝、草嶺道」(三十一軒)
  - 一、嘉義郡番路庄番路より同庄大湖を経て同郡竹崎庄奮起湖に至る「番路、奮起湖道」(二十八軒)
  - 一、新化郡玉井庄鹿陶洋より同郡龜丹化庄後堀子を経て嘉義郡大埔庄大埔に至る「鹿陶洋、後堀子、大埔道」(四十九軒)
  - 一、嘉義郡竹崎庄奮起湖より同庄生毛樹を経て斗六郡古坑庄草嶺に至る「奮起湖、草嶺道」(四十軒)
  - 一、嘉義郡大埔庄大埔より同庄サビキ牧場を経て同郡番地サビキに至る「大埔、サビキ道」(二十五軒)
- などであるがこの中十六年度に於ては十九萬五千圓を以て、溪邊厝草嶺道十八軒、番路、奮起湖道十四軒、觸口、サビキ道十七軒その他大坪、梨園寮道四軒及び玉井、南化道三軒の五路線五十六軒の區間が開鑿される事になつてゐる。

防空壕構築の研究

防空壕の構築は如何にすべきかの研究は各地方で實行せられてゐるが就中道路と防空壕の構築關係は重要な案件である夫れで臺日紙上で公にせられた大竹文輔氏の説明を摘記し參考とする。

國隣情勢の逼迫と共に防空壕構築の急務が鳥民の間にも漸く眞剣に叫ばれるやうになつて来たことは、いささか泥縄式の感がないでもないが、今からでも決して遅くはない、六百萬鳥民が心をつににしたならば敵機の襲撃に敢然と應じられるだけの待避施設はそんなに大きな困難はなく實現するものと信ずる。

防空壕は投下された爆彈の破裂による弾片や破片、爆風等に確く危害を防ぐだけでなく、若し出来得るならば毒ガスの危害に對しても防護することが出来るやうに構築しなければならぬのである。その位置、規模、構造等は防護に際し十分に活動が出来るやうにしなければならぬが、これについては當局の正しい指導に俟たなければならぬのは勿論である。資材、敷地等の事情が許すならば各戸にその空地を利用して設けることを原則としたいものである。然し乍ら敷地等の關係からその許さないものは近隣が共同して設けると云ふ方法を

とらなければならぬ。

防空壕は理想としては小規模のものを澤山に分散して設けるやうにしたいものである。大規模のものが必要な場合にしても收容人員は二十人を限度とした程度のものが最も効果的であると云はれて居る、一般家庭用としては收容人員五人程度の小型防空壕、作業場とか集合住宅等で使用する大型防空壕は收容人員二十人程度とするのである。

防空壕をいづれの位置に設けるかと云ふことは極めて重要な問題であるから、これが指導の任に當る者は慎重に調査と研究をなし防火その他の積極的防護活動に便利であると共に家屋が崩潰したり火災等が発生した場合には速かに安全地帯へ脱出することが出来る場所を選定しなければならぬのである。そして前にも述べた通り防空壕は出来得るだけ分散して配置する一方、大型の防空壕では各防空室との間隔を少くとも一〇米（五間餘）以上、小型の場合には

五米（三間弱）以上を保つ様にしなければならぬ。

防空壕を構築する場合特に注意しなければならぬことは危険物の貯蔵庫とか瓦斯タンク、石油タンク等が設けられてある附近は絶対に避けなければならぬこと、石造や煉瓦造等の崩潰の虞れる建物、堀その他の工作物、これは臺灣では内地と異り非常にこれ等の工作物が多いのであるから萬全の策から云つても特別の考慮を拂はなければならぬと思ふ。どうしても他に適當な地域がなくこれ等の附近に防空壕を構築しなければならぬと云ふ時には崩潰による危害の防止のために特に平常からこれが補強工事を行ふことを忘れてはならない。

防空壕をその型式から區分するならば掩蔽型と開放型の二つになる。構築に際してこれ等のうちいづれを選ぶべきかと云ふと資材が許すならば最初から掩蔽型を筆者は推奨するものである。

防空壕はその本質的な使命から云つても地下式にすることが原則である。地下水の湧出とか、その他の特別な事情がある場合でも出来得る限り半地下式とすべきで、どうしてもその出来ない場合に限り地上式にする。防空壕の收容家ほどの程度の大きさにしたがよいかと云ふ事はそれ〴〵研究家によつて多少の相違はあるやうであるがここには總督府防空課が示す處の標準によることにする、即ち

小型防空壕

片側席 幅七〇糎 高一四〇糎

(二尺三寸) (約四尺六寸)

兩側席 幅一〇〇糎 高一四〇糎

(三尺三寸)

大型防空壕

片側席 幅八〇糎 高一五〇糎

(約二尺六寸) (約五尺)

兩側席 幅一二〇糎 高一五〇糎

(約四尺)

地方通信

腰掛の長さは一人當り四五糎(約一尺五寸)を標準として決定されて居る。

收容室の出入口の幅は我國では六〇糎(約二尺)が標準になつて居る。

片側席の防空壕にはどの程度の敷地が要るか云ふと、これも適確な數字を出すことはなかなか困難な問題であつて學者や研究家の意見も種々あるやうである。總督府防空課では

小型防空壕

全敷地面積

六・五平方米(約二坪)

一人當の面積

一・三平方米(約〇・四坪)

大型防空壕

全敷地面積

三〇平方米(約九坪)

一人當の面積

一五平方米(約〇・四五坪)

兩側席の防空壕には大體これ等の數字の約八割の面積で十分であらう。

防空壕の構築等に際して細心の注意をしなければならぬのはその構造と設備の點である。

地下式防空壕 先づ第一に擧げるのは壁體である、施工前に地質を十分に調査し若し軟弱な場合には相當の強さを有する土留壁を設けなければならぬ。土留壁に使用する杭には丸太或は角材を用ひ土留板に或は型板ひは波型の亜鉛引鐵板(生子板)を用ひる事が最も輕便であり強度の點から云つても申分のないものではあるが、資材不足の折から注文通りにこれ等のものが入手出来るかどうかは疑はしい。従つて我々は防空壕を構築するに際しては、この點を考慮に加へて代用品として相當の厚さを有する木板を使用するやうに豫め準備して置くことが必要である。

掩蔽型の場合には梁を設備してこれに天井板を張らなければならぬ。天井板の上部に厚さ五〇糎(約一尺七寸)程度の土砂を敷くか、或ひは厚さ一五糎程度のコンク

リートで掩蓋としなければ安全を保つことは出来ないが、掩蓋の土砂は必要以上に厚さを増加しないやうにすることを忘れてはならぬ。天井板の上部には是非とも防水紙か防水布を敷いて雨水が漏入することを防ぐやうにする。

土留板や天井板の厚さや杭、梁の太さと之が間隔は次のやうな標準によれば安全である。この場合掩蓋として三〇糎以上、四十五糎程度の厚さの土砂を置くものとしての計算である。

板の厚	杭梁の間隔	杭梁角
一・二糎	三六糎	七・五糎
約四分	約一尺二寸	二寸五分
一・八糎	五四糎	七・五糎
約六分	約一尺八寸	
二・四糎	七二糎	九糎
約八分	約二尺四寸	約三寸

床面は地下水等のために泥濘とならないやう板、砂、砂利、石炭酸、藁、樹枝等を敷へと共に出入口は成るべく二箇所設けるやうにしたものである。出入口が一箇所の時には、その反対の方に非常口を設けて置くことである。収容室は弾片、破片、爆風等が直接に侵入しないやうに出入用の通路を屈曲して設けるか或は防護扉を設け、出入用の通路は出来得る限り斜路となし若し階段を設ける場合には四、五段とし、その勾配は四、五度程度が最も理想的である。非常口には梯子や口掛りを設けて置いていざと云ふ時に脱出するのに便利な構造となし、その掩蓋としては板子等を用ひて内部から容易に押開くことの出来るやうな設計になすべきである。

換氣及び採光のために開き口を設けなければならぬ、時には収容室の上部を選ばなければならぬが、これには餘程慎重な設計により施工することである。若し不用意にこれを行ふと掩蓋の強度に大いに影響することを忘れないやうにして貰ひ度い。必要の場合には監視孔を設け、又排水溝、溜樹等も地質に應じそれ／＼施工して置く

ことは云ふまでもないことである。

腰掛は奥行を三〇糎（約一尺）、高さ三六糎（約一尺二寸）を標準とされて居り、腰板の支へとして煉瓦を積重ねることが便利のやうである。

地上式防空壕 地上に露出されるものであるだけに爆風や弾片、破片等の影響を地下式に比較するとより以上に受けるのであるから壁體の構造は特に衝撃震動等のために崩潰しないやう留意することが肝要である。その厚さをどの程度にするかと云ふと

一、周壁の外側に土を盛り上げたもの

一〇〇糎以上（約三尺三寸）

一、土嚢や土砂を充填した箱等を組積したもの

七〇糎以上（約二尺三寸）

一、二重周壁の間に土砂を充填したもの

七〇糎以上

一、二重周壁の間に煉瓦、石等を充填したもの

五〇糧以上(約一尺七寸)

一、コンクリートを用いたもの

二〇糧以上(約七寸)

土嚢や土箱等を積み上げる時に注意しなければならぬことは、絶対に隙間をつくらぬことであつて、材料としては布袋、麻袋、米俵、炭俵、臥、籠、石油箱、蜜柑箱等を利用するもので、周壁の外側は防水紙か布を使用して雨水の滲入するのを防ぐことは地下式の場合と同様である。掩蓋も地下式に準ずればよい。

半地下式防空壕 半地下式防空壕の場合その構造は地表面から下部は地下式防空壕に、上部は地上式に準じて構築するものであるが、土留壁は板型、粗朶土俵の類を用ひた簡単なものでもよいのである。

防空堀を必要とする場合、その構造は地上式防空壕の壁體の構造に準じて築造すればよい。しかし獨立した防ち堀の場合はその脚部を相當の深さに埋込むか擴大するか支柱を設けて倒壊しないやうにして置かな

ければならぬ。

防空壕を構築する際に、若しこれ、防毒的の構造とするには收容室の空氣の容積を慎重に計算し、果して幾時間をこの收容室内で安全に達させるか豫め研究をして置かなければならない。熱帯醫學研究所富士博士の研究によれば、防毒を對象として收容室を設計するには、氣密とすれば一人當り一立方米、これは一時半がその極限となつて居る。待避者の中には老、幼男女が居るため容積は出來得る限り餘裕をとり、若し事情が許すならば大きいほどよい譯で少くとも一立方米一時間の割合で計算することを可とされて居る。

掩蓋及び地上式及半地下式の防空壕の周壁には板張りを用ひて間隙のないやうにパテ粘土を充填する方法をとるか、或は不滲透性の紙か布で目貼りをして完全に氣密が保てるやうに施工することが肝要である。

出入口には卵毒扉を取付けることは勿論である。そして若し出來るならばその後方一

〇以上の處に防毒扉或は防毒幕等を設ける。防毒扉は板戸に薄い鐵板(トタン板)又は前にも述べた不滲透性の紙か布の類を張付けたものとなし、取付は枠木に切込みを設け摺合せには羅紗、フェルトなどを用ひるのである。

防毒幕には排開式と捲き上式の一種類がある。排開式のものにはゴム引布、防水布、油引厚織布又は水に濕した毛布又は原織布等の不滲透性の布を左右二枚用十分重ね合せたものとなし、その取付は一人が出入し得られる程度に棧木等を使用し枠木に打付けるのである。この場合、枠木を僅に傾斜させたならば幕の重ね具合が良好になる事があるから防空壕の構築に當る者は常識として之を念頭に入れて置く事が必要であらう。捲き上式は不滲透性の紙か布の表に竹棧木等の横骨を付けたものを傾斜した枠木に沿つて捲き下ろして置くものである。

換氣及び採光のために設けてある開口や監視孔等は何時でも直ちに閉塞が出来るや



うな構造にして置かなければならない。防空壕を構築するに際して必要なことは先づ收容人員、形式、位置及びその大きさを決定し設計にかならなければならぬ。そして先づ掘鑿に着手する譯である。掘出した土砂は壕の構築に邪魔しないやう、ある程度の距離まで運搬して置いてから杭を打込み、支柱の組立てにかかると。骨組が出来上つたならば之に板を張つて土を盛り、又は土を充填するなどして周壁を設け次に腰掛の設備をする。それが終ると掩蓋の作業に着手し置土をするのであるが、盛り土や充填土は少くとも二〇厘の層ごとに十分に搗き固めて積上げることである。

防空壕を構築したいからと云つて資材不足の折から、悉く新しい材料を求めようとすることは感心しないし、又恐らく入手には餘程の困難があらうと思ふ、平素からこれ等に必要な材料や器具は準備して置くことは勿論であるが、いざと云ふ時のため、どんな家庭でも物置や縁の下などを尋ねて

見たならば不用な木材や木箱はあるものであるから、近隣がこれを持ち寄つたならば、案外、資材難などは簡単に解決出来るものと信ずる。

## 兵庫通信

小野生

延長二十五里に亙る鐵道の土手腹は空地のまま永年眠り續け來つた姿であつたが新體制下資源涵養の國策に協力せしめんものと鐵道省兵庫管區の姫路保線區では此空地手に「こうづ」「三極」を植へ資源に憫む織維工業界へ貢獻せんことを考へ此處延長約二十五里に上る築堤を利用するの案を立て來四月から試植し其の成果如何によつては全國の鐵道用空地利用に依る資源涵養策を遂行すべく鐵道省で考慮研究するのとである。

## 春雜吟

鏡 石

あけぼの、波白るくと春淺し  
南へ南へと岬岬や夕霞  
母に似た遺兒すこやかに二日灸  
新婚の夫婦なるらし桃の花  
初鳥は晴又雨や桃の花  
春雨に傘さして興亞觀音堂  
樓の灯の夜深々と猫の戀  
次ぎ次ぎに山又山や夕霞  
釣り暮れて船を渚に春の月  
祕事を傳ふ祠のそこら落椿  
つと見あぐる瞳うるわし雛の客  
蜜柑空し畑つきてそこ春の海